

---

# 川の岸辺を歩く。

有賀 神六

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

川の岸辺を歩く。

### 【コード】

N0276M

### 【作者名】

有賀 神六

### 【あらすじ】

夢、妄想か、光大理は、御親の大神と出会い再会を約束した。

気が付くとビルの中にいた。廊下を歩きエレベーターに向かう。扉が開き中に入る。

扉を閉じる上を見ると100階の表示が見える。

ガクンと音がして、エレベーターが下っていく。100、99、98、97、

下の階に向かっているようだ。80、79、78、77

どンドン、下に向かっている。50、49、48、47、46

更に下に30、29、28、27、26、25、24、23、22、  
21

10、9、8、7、6、5、4、3、2、1

チーン扉が開いた。目前には、緑の光景が広がっている。

扉から、外に出る。少し行くと小川が流れているようだ。水の流れる音が聞こえる。

音の方に向かう、川が見えた。

小川のように上流は、蛇行しているようで右の方に曲がっている。

私は、川に沿って上流の方に向かって見ることにした。

川を遡り少し行くと曲がり角に一人の白髪白衣の老人が杖を突いて立っていた。

『こんにちは』私が挨拶すると

老人は、笑顔で応えた。

『良く来た我が子孫よ。』

『私は、光大理と申します。貴方様の御名前をお伺いしてよろ

しいでしょうか?』と私。

『本来、我に名前は、ないが、便宜上、〇〇〇〇〇と呼ぶが良い、又は、お前の国の言葉で御親の神でも良いがね。』白髪の老人は、応えた。

『この度は、LUMA様の縁でこの地での面会を賜りありがとうございます。』

『しかと、言葉で願望を申せそれが汝の力となる。』

『今まで、そして今後もお守り戴き誠にありがとうございます。御親の大神様。そして、いままでの貴方様に対する御不敬をお詫びします。お許し下さい。』

『付きましては、お願い申し上げます。本当の豊かさや自信を我、光大理は、手に入れたく、我、直霊たるハイヤーセルフと融和と自信を取り戻すための光をご提示願いたいのですが、』

『しかと受け給った、汝の一霊四魂に光のご加護と先日手に入れているシトリンに力を授けよう』

『この力を持って、自己の自信を増し益々の神仏開運業に務めるが良いぞ!』

『ありがとうございます。我、御親の大神様の益々の御開運ご活躍をお祈りします。』

『又、何かございましたら、ご助言、ご助力お願い申し上げます。』  
『元の御蔵にお戻りください。必要な時、又、この場でお目通りをお願いします。』

そう私が言うのと周りがフラッシュを焚かれたように一気にまぶし

く輝いた。

気が付くと私は、布団で起きた。

(後書き)

妄想です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0276m/>

---

川の岸辺を歩く。

2010年10月28日03時05分発行